

<div>教育目標</div> <p>意欲的に学び、自他を大切にして、未来を拓く生徒の育成。</p>	
<div>年度末の最終評価</div>	
自己評価	<div>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</div> <p>今年度は学力向上のさまざまな取組を組織的に進めてきた。全国学力・学習状況調査や学習確認プログラムで平均を上回る教科や学年が増えるなど、成果が表れる場面も多く見られたが、まだまだ解決すべき課題がある。「徹底する」ということを念頭におきながら、取組を進めたい。</p> <p>また、今年度から２年間、国立教育政策研究所指定教育課程研究指定校事業「校種間連携」の指定を受けて、校区の２小学校と学力向上の研究を進めているが、それをプラスの方向へと導けるようそれぞれの取組の意義の確認を徹底して行い、組織的な学力向上の取組を推進していきたい。</p>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大藪小学校、久世西小学校、久世中学校の三校がしっかり連携をして、子どもたちの育成に取り組んでいるようすが地域によく伝わっている。</li> <li>○ 今年度から２年間取り組まれる「校種間連携」の研究指定については、しっかり取り組んでいただき成果が現れることを期待している。学校運営協議会としてもどのような支援があるのか議論を深めたい。</li> </ul>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和元年 1 0 月 1 5 日	共同機構久世学校運営協議会
最終評価	令和 2 年 2 月 1 8 日	共同機構久世学校運営協議会

(1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

<div data-bbox="285 1624 774 1641" data-label="Section-Header"> <h3>重点目標</h3> </div> <div data-bbox="285 1641 774 1677" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 確かな学力の育成に向けた授業改善。</li> <li>○ 家庭学習時間の習慣化。</li> <li>○ 読書活動の習慣化。</li> </ul> </div>	
<div data-bbox="285 1677 774 1695" data-label="Section-Header"> <h3>具体的な取組</h3> </div> <div data-bbox="285 1695 774 1731" data-label="List-Group"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 確かな学力の育成に向けた<u>授業改善</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎時間、授業の目標を提示し、課題に応じたまとめと振り返り行うことを徹底。</li> <li>・ 言語活動の充実と、「思考力・判断力・表現力」などの効果的な育成。</li> <li>・ すべての教職員による年1回以上の授業研究の実施。</li> <li>・ 小中合同教科主任会による学力分析と対策の検討とその徹底。</li> <li>・ <u>授業にリンクした家庭学習課題</u>の設定。</li> </ul> </li> </ol> </div>	

- ・学習確認プログラムの活用の徹底。
- ・久世三校合同研究発表会の実施。
- ・年2回の公開授業週間の実施。
- ・「久世スタンダード Ver. 2」（生徒版）の活用した学習規律の徹底。

## 2. 家庭学習の習慣化に向けて

- ・「久世三校版 家庭学習のてびき Ver. 2」の配布とその活用（生徒・保護者へ啓発）
- ・「家庭学習ノート」の活用。

## 3. 読書活動の習慣化に向けて

- ・朝読書の充実。
- ・学校図書館の利用啓発と、地域図書館との連携強化。

### （取組結果を検証する）各種指標

- ・学校評価アンケート
  - ①「中学校の授業がよくわかりますか」（生徒）
  - ②「授業の最初に目標が示され最後に振り返る活動がありますか」（生徒）
  - ③「みんなに自分の思いや考えをわかりやすく伝えようとしていますか」（生徒）
  - ④「家庭で1時間以上学習していますか（学習塾・家庭教師など含む）」（生徒）
  - ⑤「学校以外でも読書をしていますか」（生徒）
- ・学習確認プログラムの結果。
- ・全国学力・学習状況調査の結果。

## 中間評価

### 各種指標結果

- ・学校評価アンケート  
授業が分かりやすいという意見は多い。授業の最初と最後の目標提示や振り返り活動は十分とはいえない。家庭学習や学校外での学習・読書はあまりできていない。自分の思いや考えはうまく伝えられていないことが多い。
- ・学習確認プログラムの結果。各学年、概ね全市平均前後。
- ・全国学力・学習状況調査の結果。国語・数学は全国平均を少し上回る。英語は全国平均を少し下回る。

## 自己評価

### 分析（成果と課題）

- ・授業の最初と最後の目標提示や振り返り活動が徹底できていない。
- ・朝読書は前向きに取り組めているが、それ以外の読書については十分ではない。
- ・週末課題などの家庭学習を提供しているが、それ以外の自分で取り組む学習時間が少ない。

### 分析を踏まえた取組の改善

- ・授業の最初と最後の目標提示や振り返り活動を教科会を中心に周知徹底する。
- ・図書文化委員、図書館教育係や図書館司書連携して、読書の機会を増やす。
- ・週末課題以外にも教科で課題の設定を行い、各種調査に結びつける取組を行う。

### （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・学校評価アンケート
  - ①「中学校の授業がよくわかりますか」（生徒）
  - ②「授業の最初に目標が示され最後に振り返る活動がありますか」（生徒）
  - ③「みんなに自分の思いや考えをわかりやすく伝えようとしていますか」（生徒）

	<p>④「家庭で1時間以上学習していますか（学習塾・家庭教師など含む）」（生徒）</p> <p>⑤「学校以外でも読書をしていますか」（生徒）</p> <p>・学習確認プログラムの結果。</p>
学校関係者評価	<p><u>学校関係者による意見・支援策</u></p> <p>2年生の学習確認プログラムにおいてすべての教科で指数が100を超え、理科については18ポイント上回るなどここ数年の学力向上の取組の成果が伺われる。効果のあった取り組み事例の共通理解を徹底することが大切だと考える。</p> <p>また、家庭学習の定着と読書活動推進について、保護者や地域の理解と協力を得る具体的な方策を今後も模索したい。</p>

## 最終評価

	<p><u>中間評価時に設定した各種指標結果</u></p> <p>・授業アンケート</p> <p>授業の理解度は中間評価時より上がっている。</p> <p>授業の最初の目標提示、最後の振り返りも中間評価時より特に2年生で大幅に改善された。</p> <p>3年生は受験が近づくにつれ家庭学習の時間が大きく向上し、1・2年生も少し向上した。</p> <p>・学習確認プログラム</p> <p>2年生は概ね全市平均を上回った。3年生は前回は下回る教科が多かった。</p>
自己評価	<p><u>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</u></p> <p>・授業の最初の目標提示と最後の振り返りは定着しつつある。特に2年生は大きく改善された点が学力調査の結果にもつながっている。</p> <p>・学校以外での読書時間が前回と変わらず十分でない。</p>
	<p><u>分析を踏まえた取組の改善</u></p> <p>・目標提示と振り返りの徹底。→授業アンケートを実施し、実施状況を確認。</p> <p>・図書文化委員と連携し、読書を促す。→ビブリオバトルを1・2年生で実施予定。</p> <p>・各種調査の分析を教科会を中心に行い、授業改善につなげる。</p>
学校関係者評価	<p><u>学校関係者による意見・支援策</u></p> <p>ここ数年、家庭学習がなかなか定着しないことが課題としてあげられるが、その意義を共通理解するための手立てを工夫する必要があるのではないかと。「久世三校版家庭学習のてびき」や「久世ノート」の活用状況の検証をそれぞれの学校で行い、それを久世三校で共通理解して取組を進めてほしい。</p>

## （２）「豊かな心」の育成に向けて

<p><u>重点目標</u></p> <p>○ 生徒の自己有用感を高め、自尊感情を育てる「ピア・サポート」事業の継続。</p> <p>○ 「おもてなしの心（目の前の人を大切にする精神）」の育成。</p> <p>○ 道德教育の充実。</p>
<p><u>具体的な取組</u></p> <p>1. 体験的な活動を通してこども子どもたちの社会性を育む手段として、「ピア・サポート」活動に継続して取り組む。</p> <p>・他者との関わりの中で、参加するすべての生徒が<u>自己有用感を獲得</u>するよう、年齢の差、経験の差を利用したお世話活動を展開する。（中学生と園児など）</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・そこで得た意欲や感情を定着させるため、十分な事前・事後学習の場を準備する。</li> <li>・校内に3年生をリーダーとした好ましい関係を構築するため、3年間を見通した取組の中で育てる。</li> </ul> <p>2. 「久世教育機関協働協議会」（保育園、小学校、中学校、児童館、図書館）が協働して、<u>あいさつと読書</u>を中心に取り組み、育ちと学びの連続性を高める。</p> <p>3. 「あいさつ」を通して、<u>人と人とのつながりを大切にする</u>など、コミュニケーション能力を育成する。</p>
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>⑥「楽しく学校生活を送っていますか」（生徒）</li> <li>⑦「自分から進んで、気持ちよくあいさつをしていますか」（生徒）</li> <li>⑧「学校や社会のルールやマナーを守ることを心がけていますか」（生徒）</li> <li>⑨「相手の気持ちを考えて行動していますか」（生徒）</li> <li>⑬「クラスや学校の活動や生活の中で、人の役に立っていると感じていますか」（生徒）</li> <li>⑭「自分には、よいところがあると思いますか」（生徒）</li> <li>⑮「今の自分が好きですか」（生徒）</li> </ul> </li> </ul>

## 中間評価

<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>⑥「楽しく学校生活を送っていますか」1年：5.1 2年：5.5 3年：5.5</li> <li>⑦「自分から進んで、気持ちよくあいさつをしていますか」1年：4.9 2年：5.2 3年：5.2</li> <li>⑧「学校や社会のルールやマナーを守ることを心がけていますか」1年：5.4 2年：5.6 3年：5.6</li> <li>⑨「相手の気持ちを考えて行動していますか」1年：5.2 2年：5.4 3年：5.5</li> <li>⑬「クラスや学校の活動や生活の中で、人の役に立っていると感じていますか」 1年：3.8 2年：3.9 3年：4</li> <li>⑭「自分には、よいところがあると思いますか」1年：3.9 2年：4.2 3年：4.3</li> <li>⑮「今の自分が好きですか」1年：3.5 2年：3.8 3年：3.9</li> </ul> </li> </ul>	
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <p>「学校に来るのが楽しい」、「自分から進んで、気持ちよくあいさつをしている」、「学校や社会のルールを守り、マナーを心掛けている」、「相手を思いやり、考えて行動している」は数値が高いが、昨年度と比較すると、全体的に少し下がっている。「自分から進んであいさつをしていますか」については、1年生がわずかではあるが5を下回っている。ピア・サポート活動など相手意識を育成する取り組みがもっと必要だと考えられる。</p> <p>自己肯定感、自己有用感につながる、「人の役に立っている」、「自分によいところがあると思う」、「今の自分が好き」に関しては、十分に高いとは言えない。</p>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <p>普段の関わりの中から、相手意識を高める必要がある。特に「あいさつ運動」などを通じ、あいさつへの意識だけでなく、普段のちょっとした会話の中から相手意識を持つことの大切さを浸透させる必要がある。ピア・サポートを軸とし、さまざまな縦割り活動を通じて最後に自分をし</p>

	<p>つかりと振り返る機会を与えることで、「自分が役に立っている」という意識をもっと高めていき、自己肯定感と自己有用感を高める必要がある。</p> <p><b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>⑥「楽しく学校生活を送っていますか」(生徒)</li> <li>⑦「自分から進んで、気持ちよくあいさつをしていますか」(生徒)</li> <li>⑧「学校や社会のルールやマナーを守ることを心がけていますか」(生徒)</li> <li>⑨「相手の気持ちを考えて行動していますか」(生徒)</li> <li>⑬「クラスや学校の活動や生活の中で、人の役に立っていると感じていますか」(生徒)</li> <li>⑭「自分には、よいところがあると思いますか」(生徒)</li> <li>⑮「今の自分が好きですか」(生徒)</li> </ul> </li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>学校評価アンケート項目において、「学校が楽しい」と感じている子どもの数値が、昨年に比べるとやや低下していることが少し気になる。すべての生徒に自己有用感を獲得させるためには、子どもたちをほめることについて少し工夫することがとても大切である。また、すべての教職員がピア・サポートについて共通理解することがより重要になると考える。</p>

#### 最終評価

	<p><b>中間評価時に設定した各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑥「楽しく学校生活を送っていますか」 1年：5.3 2年：6 3年：5.4</li> <li>⑦「自分から進んで、気持ちよくあいさつをしていますか」 1年：4.8 2年：5.4 3年：5.1</li> <li>⑧「学校や社会のルールやマナーを守ることを心がけていますか」 1年：5.5 2年：5.9 3年：5.7</li> <li>⑨「相手の気持ちを考えて行動していますか」 1年：5.1 2年：5.5 3年：5.6</li> <li>⑬「クラスや学校の活動や生活の中で、人の役に立っていると感じていますか」 1年：3.9 2年：4.1 3年：4.1</li> <li>⑭「自分には、よいところがあると思いますか」 1年：4.1 2年：4.3 3年：4.5</li> <li>⑮「今の自分が好きですか」 1年：3.6 2年：4.2 3年：4.1</li> </ul>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <p>学年によって、数値があがっている項目と下がっている項目のばらつきが見られる。2年生はすべての指標とする項目において数値が上がっている。1，3年生においては項目によってわずかな数値の変動はあるが、前回とはほぼ変化はない。ピア・サポート活動など他学年を意識した取り組みを充実させ、相互的な仕掛けが必要と考えられる。</p> <p>自己肯定感，自己有用感につながる，「人の役に立っている」，「自分によいところがあると思う」，「今の自分が好き」に関しては，前回と比較し，どの学年もわずかながら数値は上がっている，これからもさらなるレベルアップを図る。</p> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>学年という枠を飛び越えた仕掛けが必要と考えられる。行事だけでなく，生徒会活動や委員会活動なども縦割り活動として工夫し，規範意識や相手意識を高めるように取り組む必要がある。自己肯定感と自己有用感については，引続きピア・サポートを充実させ，さまざまな活動を通じて最後に自分をしっかりと振り返る機会を与えることで，自己肯定感と自己有用感を高める必要が</p>

	ある。
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>子どもたちの自己有用感を育む取組として「ピア・サポート」に取り組まれているが、社会性育成のしくみなど、その目的の共通理解が必要だと感じる。</p> <p>教員主導ではなく、子どもたちが主体的に課題に取り組み、そこで得た意欲や感情を定着させるための十分な準備をお願いしたい。</p>

### (3)「健やかな体」の育成に向けて

<p><b>重点目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的生活習慣の確立。</li> <li>○ 保健教育の充実。</li> <li>○ 防災教育の充実。</li> <li>○ 組織的な部活動の運営。</li> </ul>
<p><b>具体的な取組</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「久世教育機関協働協議会」において、「早寝・早起き・朝ごはん」及び「あいさつ」「家庭内のコミュニケーション」運動を展開することにより、<u>望ましい生活習慣</u>を自ら実践する力を育てる取組の充実を図る。</li> <li>2. 1年生で「防煙教室」「ケータイ教室」、2年生「非行防止教室」、3年生「薬物乱用防止教室」と計画的に実施し、<u>正しい知識を知り、自分で正しい判断ができるようにする。</u></li> <li>3. 「久世ふれあいトーク」で健康や安全、また身近な話題や様々な問題について地域の方と話し合う。</li> <li>4. スポーツや文化、科学など、生徒が自分の興味や関心に応じて自主的、自発的に活動する中で、それぞれの個性や能力を伸ばしたり、社会性や人間性を育む様々な経験を積んだり、生涯の友人を得たりする教育活動の一つとして、部活動を運営する。</li> </ol>
<p><b>(取組結果を検証する) 各種指標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校評価アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>⑩「毎日、朝ごはんを食べていますか」(生徒)</li> <li>⑪「7時間以上睡眠時間をとっていますか」(生徒)</li> <li>⑫「将来の夢や目標がありますか」(生徒)</li> </ul> </li> <li>2. 薬物乱用防止, 非行防止, 防煙, SNSなど各種教室の開催。</li> <li>3. 全国学力・学習状況調査生徒質問紙。</li> <li>4. 部活動参加率</li> </ol>

### 中間評価

<p><b>各種指標結果</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校評価アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>⑩朝食の喫食（実現度）…1年生 6.3 2年生 6.3 3年生 6.2 保護者 5.9 教職員 4.8</li> <li>⑪7時間以上睡眠（実現度）…1年生 5.5 2年生 5.5 3年生 5.3 保護者 5.1 教職員 4.9</li> <li>⑫将来の夢や目標がある（実現度）…1年生 5.5 2年生 5.2 3年生 5.1 保護者 4.4 教職員 4.8</li> </ul> </li> <li>2. 5月28日に3年生「非行防止教室（薬物乱用防止）」、6月26日に2年生「非行防止教室（いじめ・ケータイ）」、7月4日に1年生「非行防止教室（いじめ・ケータイ）」を生徒指導課担当課長</li> </ol>
--

<p>に講師をお願いして実施した。1年生「防煙教室」については、日程調整中である。</p> <p>3. 全国学力・学習状況調査「生徒質問紙」</p> <p>「朝食の喫食」…77.6%（全国 82.3%）</p> <p>「同じ時刻に就寝」…71.5%（全国 78.0%）</p> <p>「同じ時刻に起床」…93.8%（全国 92.8%）</p> <p>「将来の夢や目標を持っている」…68.8%（全国 70.5%）</p> <p>4. 運動部参加率 63%，文化部参加率 24%で約 87%の生徒が部活動に参加している。昨年度より 7%減少している。</p>	
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食の喫食率は約 90%と昨年より少し減少している。また、毎日ほぼ決まった時間に起床している生徒は約 94%と全国平均を上回っているが、就寝している生徒は約 72%とやや少ない。昼夜逆転している生徒も少し増加傾向である。</li> <li>・薬物乱用防止教室，非行防止教室，SNS などゲストティーチャーによる各種教室の開催が定着してきた。学校や家庭，地域での生活にもその効果が伺える。</li> <li>・約 87%の生徒が部活動に参加して，自主的，自発的な活動が多く見られるようになった。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣の確立に向け，久世教育機関協働協議会と連携しながら，実践する力を育てる取組を推進する。</li> <li>・生徒の行動に結びつく取組を，保護者，地域とともに推進する。</li> <li>・部活動ガイドラインに基づき，生徒が達成感や満足感といった感動を集団で共有して，生涯の友を得る場となるよう組織的な運営を推進する。</li> </ul>
	<p><b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>⑩「毎日，朝ごはんを食べていますか」（生徒）</li> <li>⑪「毎日，7 時間以上睡眠時間をとっていますか」（生徒）</li> <li>⑫「将来の夢や目標がありますか」（生徒）</li> </ul> </li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>子どもたちの「命を守る」視点から，発達段階に応じて望ましい生活習慣の確立や健康の保持増進に向け，子どもたちが自ら実践する力を育てる取組を，保護者，地域と連携しながら引き続き進めてほしい。</p> <p>また，久世教育協働協議会と課題を共有して，子どもたちが自律的な行動をとれるようさまざまな取組を推進していただきたい。</p>

#### 最終評価

<b>中間評価時に設定した各種指標結果</b>	
1. 学校評価アンケート	
⑩朝食の喫食（実現度）	
7 月	1 年生 6.3    2 年生 6.3    3 年生 6.2    保護者 5.9    教職員 4.8
1 2 月	1 年生 6.4    2 年生 6.5    3 年生 5.8    保護者 6.0    教職員 5.3
⑪7 時間以上睡眠（実現度）	
7 月	1 年生 5.5    2 年生 5.5    3 年生 5.3    保護者 5.1    教職員 4.9
1 2 月	1 年生 5.7    2 年生 5.4    3 年生 4.8    保護者 5.0    教職員 4.9
⑫将来の夢や目標がある（実現度）	

	<p>7月 1年生 5.5 2年生 5.2 3年生 5.1 保護者 4.4 教職員 4.8</p> <p>12月 1年生 5.1 2年生 4.8 3年生 5.2 保護者 4.5 教職員 5.0</p> <p>2. 1年生対象の「防煙教室」は、日程の都合で今年度も開催できなかった。</p> <p>3. 部活動については、運動部参加率 68%、文化部参加率 25%で昨年より少し多い約 93%の生徒が部活動に参加した。</p>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食の喫食率について、7月期と比べ1年生と2年生は0.1～0.2ポイント上昇しているが、3年生は0.4ポイント減少している。</li> <li>・睡眠時間の確保について、7月期と比べ1年生は0.2ポイント上昇しているが、2年生と3年生は0.4～0.5ポイント減少している。</li> <li>・「将来の夢や目標がある」について、7月期に比べ3年生は変化ないが、1年生は0.1ポイント、2年生は0.2ポイント減少している。</li> <li>・部活動について、年度当初より転部や退部した生徒もいるが、自主性や協調性が育ちつつある部が増えてきた感がある。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食の喫食やその内容、十分な睡眠時間の確保、余暇の過ごし方など基本的な生活習慣の定着に向け、久世教育機関協働協議会、生徒会保健委員会など連携しながら、生徒、保護者、地域への啓発を継続する。</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>前回、きちんと座れないなど体幹の弱さが話題に上ったが、スマホやゲームへの依存対策を早急に進める必要を強く感じる。情報モラルなど子どもたちの学習だけではなく、大人や地域と連携した取り組みを支援したい。</p>

#### （４）学校独自の取組

<p><b>重点目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小小連携を基盤とした小中一貫教育の推進。</li> <li>○ 生徒の自己有用感を高め、自尊感情を育てる「ピア・サポート」事業の継続。</li> </ul>
<p><b>具体的な取組</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小中合同教科主任会、小中合同授業研修会の充実。</li> <li>2. 共同機構久世学校運営協議会（小中合同）の充実。</li> <li>3. 学校運営協議会を支える学校支援推進委員会の充実。</li> <li>4. 体験的な活動を通してこども子どもたちの社会性を育む手段として、「ピア・サポート」活動に継続して取り組む。</li> </ol>
<p><b>（取組結果を検証する）各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>⑭「久世三校が小中一貫教育を大切にしていること」（保護者・教職員）</li> </ul> </li> <li>・小中合同教科主任会、小中合同授業研修会の実施回数。</li> </ul>

#### 中間評価

<p><b>各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート</li> </ul>
---



<p>「小中一貫教育の推進（実現度）・・保護者 5.1 教職員 5.4」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 始業式前の 4 月 2 日，8 月 1 日に久世三校小中合同研修会を開催し，久世地域の課題について再確認し，共通理解をした。</li> <li>・ 5 月 13 日，9 月 3 日に久世三校小中合同教科主任会を行い，学力分析と対策について共通理解を図り，基本的な知識・技能の定着を図り，授業者は研修に参加し，授業改善することが大事であることを確認した。</li> </ul>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度の「小中一貫教育構想図」を提示し，これまで取り組んできた小小連携を基盤とした小中一貫教育の意義や今後の取組に向けての方向性が共有できた。</li> </ul>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「自分で考えて行動する子どもの育成」という小中一貫教育の目標を踏まえ，9 年間を見通した学習指導，生徒指導を推進する。</li> </ul>
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校評価アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>⑭「久世三校が小中一貫教育を大切にしていること」（保護者・教職員）</li> </ul> </li> <li>・ 小中合同教科主任会，小中合同授業研修会の実施。</li> </ul>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>他の中学校区と比べると，久世三校の連携には目を見張るものがある。毎年，教職員の異動は少なからずあるので，全教職員でそれぞれの取組の意義の共通理解を徹底することが大切だと考える。久世学校運営協議会として，小小連携を基盤とした小中一貫教育をどのように支援することが効果的なのか議論を進めていく。</p>

#### 最終評価

<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校評価アンケート <p>「クラスや学校の活動や生活の中で，人の役に立っていると感じていますか」</p> <p>1 年の生徒 3.8→3.9、2 年の生徒 3.9→4.1、3 年の生徒 4→4.1</p> <p>「自分には，よいところがあると思いますか」</p> <p>1 年の生徒 3.9→4.1、2 年の生徒 4.2→4.3、3 年の生徒 4.3→4.5</p> <p>「生徒に自己有用感を獲得させることを意識して，取り組みを進めること」</p> <p>実現度 保護者 4.9→5.2</p> </li> <li>・ 11 月 13 日に久世三校合同授業研修会を開催した。</li> <li>・ 12 月から 2 月にかけて、小中教員交流（久世中→大藪小・久世西小、大藪小・久世西小→久世中）を行い、4 名の教諭がそれぞれの学校生活を 1 日体験した。</li> <li>・ 1 月 31 日に大藪小学校で授業研修会、1 月 17 日に久世小学校で授業研修会を行い、小学校の授業を通して研修し、中学校との教科（特別活動、国語・理科）での交流をはかった。</li> </ul>	
自己評価	<p>分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中連携、小小連携でさまざまな取り組みをしているので、自己有用感の数値は上がってきた。</li> <li>・ 校種間連携の指定を受け、生徒指導から学力向上に目を向け、児童・生徒に付けたい資質・能力を意識した授業改善に取り組む必要がある。</li> </ul>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連携協力研究会議を中心に、久世地域の児童・生徒の実態に応じた付けたい資質・能力を教職</li> </ul>

	員で共有し、授業改善を行っていく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>小中連携を基盤とした小中一貫教育が着実に進められているようすが伝わってくる。</p> <p>校種間連携の研究（国立教育政策研究所指定）をすべての教職員がポジティブに捉え、小中一貫教育を盤石なものとするためには、どのような方策が有効なのか議論を深めたい。</p>

#### （５）業務改善・教職員の働き方改革について

重点目標	<p>○働き方改革の推進による教職員の心身の健康の保持・増進。</p> <p>○常に働き方改革を意識した業務改善と具体的な取組の推進。</p>
具体的な取組	<p>１．教職員の勤務状況等の適切な把握。</p> <p>２．具体的な業務改善の取組の推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校・幼稚園の働き方改革推進宣言」の周知を徹底する。</li> <li>・ICTの活用による効率化など勤務時間を意識した働き方の推進。</li> </ul>
（取組結果を検証する）各種指標	<p>１．学校評価アンケート</p> <p>②〇「働き方改革を意識した業務改善を進めること」（教職員）</p> <p>２．出退勤管理システムによる勤務時間管理。</p> <p>３．ストレスチェックの結果分析。</p>

#### 中間評価

各種指標結果	<p>１．学校評価アンケート</p> <p>②〇「働き方改革を意識した業務改善を進めること」（実現度） 教職員 5.1</p> <p>２．出退勤管理システムによる勤務時間管理</p> <p>時間外勤務（月 80h 以上） ４月 11 名 ５月 11 名 ６月 11 名 ７月 4 名</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>年度当初のため、それぞれ新しい分掌で企画・立案・準備しなければならないことや大型連休の影響、緊急の生徒指導対応などから時間外勤務の縮減につながっていない。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>教職員全体の業務分担を見直し、今後も、仕事の整理と優先順位をつけること、仕事の効率化を組織として取り組んでいきたい。</p> <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <p>１．学校評価アンケート</p> <p>②〇「働き方改革を意識した業務改善を進めること」（教職員）</p> <p>２．出退勤管理システムによる勤務時間管理。</p> <p>３．ストレスチェックの結果分析。</p>

学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>働き方改革を進めるにあたり、業務の量より質が大切であることを忘れずに取り組んで欲しい。また、国が示した時間外勤務のガイドライン（月４５H以内、月３６０H以内）について、実現可能な数値目標かどうか疑問視せざるを得ない。</p>
---------	--

#### 最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果									
1. 学校評価アンケート									
②⑩「働き方改革を意識した業務改善を進めること」（教職員）【実現度】									
● 7 月      教職員 5.1                      ● 1 2 月      教職員 3.9									
2. 出退勤管理システムによる勤務時間管理。									
◎時間外勤務（月 80 h 以上）									
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
人数	11 名	11 名	11 名	4 名	0 名	7 名	5 名	6 名	1 名
3. ストレスチェックの結果分析。									
◎ 1 0 月中旬に教職員に実施。その結果、高ストレス状態の教職員は無し。									
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題								
	出退勤管理システムを見ると、時間外勤務は減少している。実際に、4 月の勤務時間の平均時間は、“68 時間 12 分”であるが、12 月は“42 時間 52 分”に大幅に減少している。ストレスチェックの結果からも、顕著な事例はなかった。								
	また校務支援員の導入もすこぶる効果があった。本校に勤務している支援員が、真摯に業務に取り組むこともあるが、教職員の負担は確実に減少した。								
自己評価	しかし、学校評価アンケートの②⑩番の項目の実現度の指数が下がっていることから、所謂“持ち帰り残業”は増加していると考えられ、教職員の困りが見え隠れしている。特に経験値の低い若年層教職員（新規採用教員や常勤・非常勤講師も含む）の時間外勤務はまだまだ少なくない。								
	分析を踏まえた取組の改善								
自己評価	・“スクラップ - アンド - ビルド” 的思考による業務改善，仕分。								
	→ 学校・教職員で担う業務と学校外で担う業務の整理								
自己評価	→ 学校・教職員の業務の負担軽減								
	・新学習指導要領に沿った授業改善の確立								
自己評価	→ 教員の負担軽減になる教材研究（個から集による作業）								
	学校関係者による意見・支援策								
学校関係者評価	働き方改革を意識した業務改善と具体的な取組が少し効果を発揮しているように思う。しかし、これ以上の時間外勤務の縮減は困難ではないか。教職員の定数を増加させるなど抜本的な改革・支援がないと、優秀な人材が流出してしまうのではないか。								